

2023 年度 大阪公立大学個別学力検査(一般選抜 後期日程)
小論文 文学部 「解答例・出題の意図」

解答例

第 1 問

論理空間とは、現実が生じた事実と、生じなかった可能的事実の総体をいう。この論理空間が開かれ、事実の他に反事実的可能性についても了解するためには、世界を構成する事実が、対象と概念という構文論的要素に分解されうること、すなわち世界の分節化が前提されていなければならない。分節化された事実の諸要素を組み替えることによって、反事実的可能性を考えることができるからである。しかし逆に、世界の分節化は、反事実的可能性の了解を含む論理空間の成立を前提して初めて可能となる。事実の可能性が了解されない限り、世界の分節化は生じないからである。それゆえ、論理空間の成立と世界の分節化は厳密に同時でなければならない。(297 字)

第 2 問

いっさいが現物となるとは、世界が全体として未分節の状態となることをいう。それは事実が別様でありうる可能性をまったく含まない、現実性の様態だけの世界である。ところで構文論的構造を持つ言語のみが世界の分節化を可能にし、事実をなす諸要素の組み替えの可能性、すなわち論理的に矛盾しない限りにおける反事実的な可能性の総体としての論理空間を開くことができる。よって、そうした言語がなければいっさいは現物となる。(199 字)

出題の意図

第 3 問

次の点を見ることを意図した。すなわち、

- ① 本文(問題文)の内容が十分に理解できているか。
- ② 問われている事柄(「何に対して(何のために)」「どのような意味を持つか」)が明確に示されているか。
- ③ 設定するテーマや事例の設定が適切であるか。
- ④ 論述における議論の論理的な妥当性と説得性を持つか。